



「あふれる笑顔のまち村上」を目指して

— 村上市 —

村上市はこんなところ

新潟県の北端に位置し、面積は約1,174.17km²で、新潟県の総面積のおよそ9.3%を占めており、海岸線は、約50kmにも及んでいます。荒川、三面川および石川の河川流域は、肥沃な水田地帯として農業生産活動の基盤となっています。

「県北の城下町」と呼ばれており、臥牛山（通称：お城山）に村上城跡が築かれ、江戸時代の石垣などの遺構が今も残っています。

また、村上大祭、瀬波大祭、岩船大祭は「村上三大祭り」といわれており、おしゃぎと呼ばれる屋台が曳かれる様子は、古くからの伝統を大切にする市民の思いを感じることができます。

また、食材も豊富で「地酒」「塩引鮭」「お茶」などがあるほか、伝統工芸品として「木彫り堆朱」「羽越しな布」などがあります。

安心して産み育てていただくために

子育て支援の一環として閉校した小学校の体育館を活用し「村上市屋内遊び場」を令和4年度に開館しました。様々な遊具やボール遊びなどができ、冬期



や雨天でも安心して遊べる場所として令和5年度は延べ33,000人を超える方にご利用いただきました。

また、令和6年度からは校舎棟に未就学の乳幼児とその保護者を対象とした「きらきら子育て支援センター」を開設して、遊びや交流の場、子育て情報などを提供しています。

今後は、放課後児童クラブ、屋外遊具などを順次整備していき、子育て支援の拠点として充実を図っていきます。

ゼロカーボンシティを目指して

2050年（令和32年）までに温室効果ガス排出量実質ゼロとするゼロカーボンシティを実現するため、EVバスの運行や電気自動車充電インフラ整備による次世代自動車の利用促進、豊富な地域資源を活用した再生可能エネルギーによる発電事業の推進に取り組んでいます。特に本市及び胎内市沖で進められている洋上風力発電事業は、2029年（令和11年）の運転開始に向けて、いよいよ本格的に事業がスタートします。脱炭素化の加速化と併せて、新たな産業の創設や雇用の創出など、地域経済への好影響が大いに期待されています。



北前船日本遺産の取り組み

令和6年6月、文化庁が認定する日本遺産「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」に追加認定されました。北前船による海運業は江戸時代後期から明治時代前期に盛んとなり、市内には船主・船乗りたちが海岸部の社寺に奉納した船絵馬、港での交易を記録した古文書などの資料とともに、港があった塩谷・岩船・瀬波などに寄港地のにぎわいを伝える町並みや建物が残っています。今後は北前船の歴史遺産を後世へ伝えるとともに、これらを活用しながら交流人口の拡大、地域の活性化に向けた取組を進めていきます。



変わる公共交通

広大な市域における地域ごとの異なる地勢や交通資源に対応した公共交通の構築を進めています。交通資源の少ない地域ではNPO法人による公



共ライドシェアを導入しました。また路線バスは利用の少ない路線をデマンド型乗合タクシーへ転換を図り利便性の向上を目指しています。さらに多様な交通モードを維持するために利便性に応じた運賃設定で交通モードのすみ分けを図るなど、市全体での移動利便性を高めるとともに持続可能な交通インフラの構築を目指して取り組んでいます。

防災行政情報アプリ「むらかみ情報ナビ」

令和5年度から2か年事業で行う、「村上市防災行政無線設備更新工事」の一環として、「防災行政情報アプリ」を開発し、令和6年4月1日から運用を開始しました。

アプリは、スマートフォンやタブレットで市から配信する防災、避難、火災、気象等の情報やイベントなどのお知らせが、いつでもどこでも受け取れ、文字と音声で確認できます。

また、防災情報や暮らし情報、防災マップ機能でハザードマップや避難所等の位置を確認できます。

